【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年6月23日(2016.6.23)

【公表番号】特表2014-501576(P2014-501576A)
【公表日】平成26年1月23日(2014.1.23)
【年通号数】公開・登録公報2014-004
【出願番号】特願2013-541208(P2013-541208)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｌ　29/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｌ　29/00　　Ｗ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成28年5月6日(2016.5.6)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
コーティングを有する、バルーンカテーテルのためのバルーンにおいて、前記コーティングが、
脂肪親和性活性物質の層、及び
前記バルーンを囲んでいる血管への活性物質の放出を調節するための少なくとも１つの作用剤、
を含み、
活性物質の放出を調節するための前記作用剤が、平均分子量が１００００Ｄａ～１０００００Ｄａの多糖類であり、
前記活性物質が前記バルーンの表面上に直接配され、
前記多糖類が、前記脂肪親和性活性物質層の前記バルーンから見て逆の側に施された層の形態で設けられており、
前記多糖類が前記活性物質を覆うよう構成されている、バルーン。
【請求項２】
前記多糖類が、天然多糖類、または変性多糖類あるいはこれらの多糖類の内の様々な多糖類の混合物であることを特徴とする請求項１記載のバルーン。
【請求項３】
前記多糖類が天然デキストランであることを特徴とする請求項１または２記載のバルーン。
【請求項４】
前記デキストランが２００００Ｄａ～８００００Ｄａの間の範囲にある平均分子量を有することを特徴とする請求項３記載のバルーン。
【請求項５】
前記コーティングがチョーク様粘稠度を有することを特徴とする請求項１から４いずれか１項記載のバルーン。
【請求項６】
前記活性物質が、トレチノイン、トレチノイン誘導体、オルファンレセプタアゴニスト(Orphanrezeptoragonisten)、エラフィン誘導体、副腎皮質ステロイド、ステロイドホルモン、パクリタキセル、シロリムス、パクリタキセル誘導体、ラパミューン、タクロリム

ス、及び／または細胞増殖性変更物質から選択されることを特徴とする請求項１から５いずれか１項記載のバルーン。
【請求項７】
前記活性物質がパクリタキセルであることを特徴とする請求項６記載のバルーン。
【請求項８】
請求項１から７いずれか１項記載のバルーンを備えることを特徴とするバルーンカテーテル。
【請求項９】
請求項１－７いずれか１項記載のバルーンを製造するための、バルーンのコーティング方法において、
－　前記脂肪親和性活性物質を前記バルーンの表面上に直接配し、
－　前記バルーンの前記活性物質が配された表面を少なくともある程度、平均分子量が１００００Ｄａ～１０００００Ｄａの少なくとも１つの多糖類及び少なくとも１つの溶媒を含む溶液で濡らし、
－前記溶媒を前記多糖類から分離する、
ことを特徴とする方法。
【請求項１０】
前記多糖類が、天然多糖類、または変性多糖類あるいはこれらの多糖類の混合物であることを特徴とする請求項９記載の方法。
【請求項１１】
前記多糖類が天然デキストランであることを特徴とする請求項９または１０記載の方法。
【請求項１２】
前記デキストランが２００００Ｄａと８００００Ｄａの間の範囲にある平均分子量を有することを特徴とする請求項１１記載の方法。
【請求項１３】
前記溶媒を乾燥によって前記多糖類から分離することを特徴とする請求項９から１２のいずれか１項記載の方法。
【請求項１４】
前記溶媒が水性溶媒混合液であることを特徴とする請求項９から１３のいずれか１項記載の方法。
【請求項１５】
前記溶媒が水－アルコール混合液であることを特徴とする請求項１４記載の方法。
【請求項１６】
前記アルコールがエタノールであることを特徴とする請求項１５記載の方法。
【請求項１７】
前記水－アルコール混合液は、２５～５０重量％のアルコールを含有することを特徴とする請求項１５または１６記載の方法。
【請求項１８】
前記溶液は、１～１５重量％の多糖類を含有することを特徴とする請求項１５から１７いずれか１項記載の方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４１】
活性物質として、例えば、トレチノイン及び／またはトレチノイン誘導体及び／またはオルファンレセプタアゴニスト(Orphanrezeptoragonisten)及び／またはエラフィン誘導体及び／または副腎皮質ステロイド及び／またはステロイドホルモン及び／またはパクリ

タキセル及び／またはシロリムス及び／またはパクリタキセル誘導体及び／またはラパミューン及び／またはタクロリムス及び／またはタンパク質及び／またはペプチド及び／または細胞増殖性変更物質が本発明とともに使用可能である。ステロイドホルモンとしては、特に、メチルプレドニゾロン、デキサメタゾンまたはエストラジオールが使用可能である。活性物質として一般に細胞増殖性を変える物質が用いられることが有利である。